

香港で体験した驚きの台風対策（2018（平成30）年10月）

今年台風発生が多く、日本へ上陸して甚大な被害を及ぼした事例も、残念ながら少なくありませんでした。香港でも、台風の襲来は珍しくないようで、様々な対策が周到に練られているように感じました。学生の「保健福祉学研修」で9月に香港を訪問した際には、その実態を直接体験することができました。

香港には、台風警報として、シグナル1、3、8、9、10の5段階があります。8以上になりますと、学校や官公庁などの公的機関はもとより、一般の会社や商店なども例外無しに、「お休み」にしなくてはなりません。猛烈な「台風22号」が、フィリピンで猛威を振るい、そのまま香港に近づいて来たことから、9月中旬の土曜日の午前中に、最初はシグナル1が、次いで午後にはシグナル3が発令されました。その段階では、特段の影響はありませんでしたが、日曜日の未明に「3時間程後にシグナル8が発令される見込み」という情報が出され、実際にシグナル8が出てしまうと、事態は一変します。

まず、公共交通機関がほぼ全面的に止まります。陸上のバス、タクシー、路面電車、そして海上のフェリーは当然のことながら、地下鉄については、地上や高架上のルートはすべて止まり、トンネル内を走っている路線についても、大幅な「間引運転」となります。テレビでは台風関連情報がひっきりなしに流され、不要不急の外出を控えるよう訴えています。そのため、強烈な吹き降りの中、ホテルの窓から見える大通りでは、いつもの混雑とはまったく違って、車がほとんど走っていません。航空便もすべて運休で、病院も救急患者以外は受け入れてもらえず、役所の窓口もすべて閉鎖され、出生届・死亡届・婚姻届なども例外なしです。

テレビを見ますと、台風警報のシグナルの数値と風向きが、画面の端に常時表示されています。また以下の警告が、頻繁に画面に出て来ます。

- (1) 家の中で待機すること。窓、戸口、シャッター、門等を施錠し、補強すること。
- (2) 低い土地は洪水の恐れがあるので、そういう場所を避けること。
- (3) 排水口から、木の葉や泥、ゴミなどを取り除くこと。
- (4) 窓が割れないよう補強すること。割れることを想定して、窓から離れること。
- (5) ネオンの看板は電気を切っておくこと。
- (6) テレビやラジオの最新情報に注意すること。气象台からの情報を入手すること。

日曜日の午前8時ころには、シグナル9になり、午前10時前にはついにシグナル10（最高警報）になってしまいました。このため、せっかくの日曜日でしたが、観光客も含めて、香港中の人々が、この日は室内に閉じこもらざるを得ない状況となりました。

台風ですので、いったん過ぎ去ってしまえば、いろいろなことを元に戻せます。香港の台風警報の特色は、前もってそうした予定を知らせてくれることでした。月曜日の午前3時頃に「間もなくシグナル8からシグナル3になりそうだ」との情報が発せられ、午前4時頃には「1～2時間後には、シグナル3になるだろう」ということがテレビ画面で分か

りました。学校や会社等のそれぞれのルールにもよりますが、おおむね午前6時の段階でシグナル8が解除されていると、その日は通常通りとなります。今回は、午前5時過ぎにはシグナル3へと変更されたことから、多くの役所や企業等で、月曜日は業務がいつもと変わらずに行われたものと思われます。



この月曜日の早朝のテレビでは、各交通機関の復旧見込みが、路線毎に細かく紹介されていました。地下鉄、バス、路面電車、フェリーなど、何時頃から、どのくらいの頻度で運行が再開されるのか等、とても分かりやすい説明であり、この日の行動計画を誰もが立てやすかったものと思われます。

極めて詳細な情報が、予定も含めてタイムリーに出されていること、またそれらに基づいて、人々が不要不急の外出を控えていることについては、台風をはじめとした自然災害が多い日本でも、ぜひ見習うべきだと感じました。